高等学校の保健に関する知識の認知度に関する研究
－中学校保健体育分野「医薬品」に関する現代的課題に対応した授業構成の実証研究の一環として－

小　山　　浩
田　中　安　理
鈴　木　和　弘

要　旨

本研究では，保健分野「医薬品の正しい使い方」を対象とする。オーバードーズ（以下 OD）等の現代的課題に対応するための新しい授業を構成、実践し、その有効性を検証することを最終目標とする。今回は、その第一報として、「医薬品」を含めた、高校段階での保健の知識の認知度を調査し、2012年度からの「医薬品」に関する授業を通してのその定着状況を調べることとした。

2021年以降、新しい学習指導要領が全面実施され、保健の内容として「医薬品は正しく使用すること」の理解と実践が求められている。この「医薬品」の取り扱いについては、2012年度から実施の旧学習指導要領でも取り上げられた。しかし、「医薬品」に関する授業内容の十分な検証はなされてこなかった。そこで、中学３年間及び高校３年間で学習してきた保健の内容について、現在の大学生１年生を対象に、どの程度の把握状況（認知度）にあるのか、38項目からなるアンケート調査を実施した。

その結果、生活に密接に関係する項目については高い認知度が認められた。一方、健康や疾病に関する項目については、低い認知度であることが示唆された。その中で、「医薬品」の項目については、「薬物乱用」の項目同様、今日的な課題である市販薬のオーバードーズ問題等もあり、ある程度の認知度が認められた。

キーワード：高等学校、保健教育、医薬品、オーバードーズ

1．はじめに

本研究では、中学校保健体育保健分野「医薬品の正しい使い方」を対象とする。オーバードーズ（以下OD）等の現代的課題に対応するための新しい授業を構成、実践し、その有効性を検証することを最終目標とする。

2021年度から、中学校学習指導要領[1)]が全面実施され、保健の内容として「医薬品は、正しく使用すること」の理解と実践が求められている。この「医薬品」の取り扱いについては、2012年度から実施の中学校学習指導要領[2)]で初めて取り上げられた。しかし、「医薬品」に関する授業内容の十分な検証はなされていない。さらにOD、がん治療薬、感染症処方薬、iPS細胞を活用した創薬等の医薬品を取り巻く現代的な諸課題に対応していく必要がある。

そこで「医薬品」に関する10年間の授業実践状況を検証しつつ、現代的な課題への対処法等を取り入れた新しい保健授業の構成、実践、検証を行うことが喫緊の課題となってきた。さらに、新学習指導要領[1)]で提示されている、生涯に亘って心身の健康を維持増進するために、「健康に関する課題に対して、科学的な思考と正しい判断の下に意思決定・行動選択を行い、適切に実践していくため」に思考、判断し他に伝えていく力を身に付けることが求められている。本研究を通して、こうした事項にも対応するよう新しい授業構成を考えていくこととする。

1．1　本研究の経緯

（1）医薬品に関する「保健」の内容の変遷

コロナ感染症の蔓延の中で、「コロナ禍で他者とのつながりが希薄となり、孤立が深まることで、自殺者の増加など依存症問題が広がる可能性をはらんでいる」[3)]と指摘されている。この依存症の一つに市販薬によるODがある。ODとは医薬品の過剰摂取、過剰服用といわれ、図1に示すように、10代の使用薬物調査[4)]から、市販薬使用の比率が増加している。これは10代の生徒の健全な心身の成長を担保する学校教育の場でも、見過ごすことのできない問題といえる。厚生労働省も医薬品・医療機器等安全性情報No.365（2019）[5)]において、課題として

提起している。

学校教育において、2008年告示の中学校学習指導要領保健体育保健分野では、「健康な生活と疾病の予防」について、第３学年で扱うよう示された。この中で「医薬品の正しい使用」についても取り扱うよう初めて示された。この「健康な生活と疾病の予防」は、2017年７月告示の新学習指導要領で、第１学年～第３学年に分けて、より丁寧に扱うよう変更されている。

図１　10代の使用薬物調査

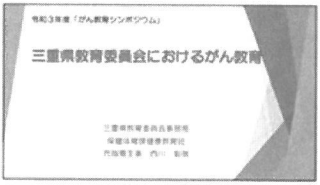
2008年告示の改定では、翌（2009）年の改正薬事法の施行により、医薬品の購買に関して、薬局でしか買えなかった医薬品の一部がコンビニンスストア等で購入可能となったこと等が、保健の内容変更に影響を及ぼしたといえる。こうした動向を受けて、2010年頃から、医薬品に関する先行授業が「くすり教育」として展開されるようになった（図２）。

この医薬品に関する内容は、既に高等学校では1999年の学習指導要領告示において先行提示されており、次の2009年の改定時[6]にも引き継がれ、医薬品教育の重要性が指摘されていた。

図２　2012年２月９日　朝日新聞

（2）中学校保健体育科の「保健」分野の現状

2017年告示の学習指導要領では、ストレスへの対処の方法等、知識だけではなく、技能の獲得についても取り扱うよう提示されている。さらに、「がんの予防」いわゆる「がん教育」も内容として扱うよう示され、様々な実践資料が提示されている（図3）[7]。



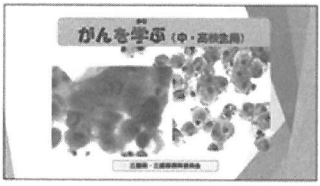


図3　三重県のがん教育より（一部筆者改）

このように、時代の要請に対応して「保健」の内容も変遷している。そこで、がん治療薬やコロナ感染症関連の医薬品、iPS細胞を用いた創薬の研究等、保健の中で扱う医薬品に関する授業展開の手法確立が求められている。

（3）「保健」授業の実施状況

中学校の保健は3年間で48時間、高等学校では入学年次とその次の年次で合計2単位実施するよう定められている。その実施状況を、表1[8]に示す。以前から指摘されていることであるが、特に中学校における保健の授業は、「雨降り保健」と言われるように、計画的に実施できていない状況が見て取れる。

表1　教師へのアンケート調査から保健学習の実施状況

「あなたは，保健学習をどのように行いましたか」　（%）

		毎週あるいは隔週というように規則的に行った	冬季・梅雨時期などある時期に集中して行った	雨の日に行うことが多かった	その他	無回答	計	
小学校	H16	5.5	60.9	12.3	20.2	1.0	100.0	
	H22	4.9	61.6	11.3	21.0	1.2	100.0	
	H27	7.7	59.0	13.5	17.5	2.3	100.0	
中学校	H16	23.3	53.3⁻	8.0⁻	13.9⁻	1.4	100.0	
	H22	22.1	40.1⁻	17.3⁺	18.9⁺	1.6	100.0	*
	H27	23.1	40.8	13.7	21.1	1.3	100.0	
高　校	H16	97.6	0.4	0.5	1.1	0.4	100.0	
	H22	98.9	0.5	0.0	0.2	0.4	100.0	*
	H27	98.6	0.2	0.2	0.0	1.0	100.0	

調査年差 * $p<0.05$（χ^2 検定），+ −（残差分析）

中学校においては、上記（2）で示したように多岐にわたる内容を、3年間で48時間という制約がある中で、適切に指導する必要がある。そのため、教師が自信を持って保健の各内容を適切に指導できるよう、内容に応じた授業構成を事前に提供する必要がある。

（4）医薬品教育の経緯

保健分野の中で、医薬品を扱う授業は、小山が2010年に試行的に取りあげ、2012年の学習指導要領実施に伴い、先行して実践報告を行っている[9)]。それから10年を経て、中学校教育において、様々な授業展開がなされてきた。しかし、OD問題のように「医薬品の正しい使用」について、様々な課題も見えてきた。また、がん教育、感染症の蔓延、iPS細胞を活用した創薬等、「医薬品」を取り巻く環境が一変してきている。保健の内容がどのように授業実践されてきたのか、この10年間の実態を把握し、今後の医薬品に関する教育に役立てるため、資料を収集し、整理しておく必要がある。さらにOD等の問題も踏まえた内容構成へと刷新し、新しい授業を構成し、実践、評価、修正、検証することを目指すこととする。

2．方法

2．1　研究の方法・計画

（1）研究フィールド

高校卒業後の大学1年生を中心に、2009年度版高等学校学習指導要領（旧学習指導要領）保健科の内容から2．2に示す保健の内容に関する質問項目を抽出し、アンケート調査を行う。対象を大学1年生としたのは、旧指導要領で「医薬品」に関する内容を、中学・高校の保健の授業で学んでいることに鑑みた。協力大学は、次の通りであった。

①　埼玉県加須市内　私立H大学1年生（以下被験者2023H1）

②　静岡県浜松市内　私立T大学1年生（以下被験者2023T1）

このアンケート調査には、旧学習指導要領に示されている「医薬品」に関する項目を含めた。

（2）アンケート実施時期

2023H 1 大学は、2023年 5 月に実施した。

2023T 1 大学は、2023年 7 月に実施した。この際、大学での授業の影響を考慮して質問項目の文言に、「高校卒業時を想定して」とした。

2．2　アンケート項目

アンケート項目は、高校時代の保健の授業内容を全般的に問う内容とし、その中に「医薬品」に関する項目も含めた。

主な内容は、次の通りである。

○大項目Ⅰ「現代社会と健康」(22小項目)

中項目ア～オ

ア　健康の考え方：死亡率、平均寿命、受療率、ヘルスプロモーションの 4 小項目

イ　健康の保持増進と疾病の予防：生活習慣病、運動と食事・休養及び睡眠、悪性新生物、虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病、喫煙と飲酒、薬物乱用、感染症の 9 小項目

ウ　精神の健康：欲求と適応機制、心身の相関、欲求やストレス対処、自己実現の 4 小項目

エ　交通安全：交通事故、自然災害による傷害防止の 2 小項目

オ　応急手当：RICE 処置、心肺蘇生、AED の 3 小項目

○大項目Ⅱ「生涯を通じる健康」(9 小項目)

中項目ア～ウ

ア　生涯の各段階における健康：思春期、受精・妊娠・出産、家族計画、人工妊娠中絶の 4 小項目

イ　保健・医療制度及び地域の保健・医療機関：介護保険、臓器移植、献血、医薬品の 4 小項目

ウ　様々な保健活動や対策：WHO の 1 小項目

○大項目Ⅲ「社会生活と健康」(7 小項目)

中項目ア～ウ

ア　環境と健康：環境の汚染［大気汚染・水質汚濁・土壌汚染等］、廃棄物の処

理の２小項目

イ　環境と食品の保健：上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物処理、食品の安全性の確保と食品衛生法の３項目

ウ　労働と健康：労働災害、労働による傷害や職業病の２小項目

総計38小項目を３件法（○：簡単に説明できる（３p）、▲：言葉は聞いたことがある（２p）、×：記憶にない（１p））で回答を得た。

※pはポイントとし、集計時の換算点とした。

２．３　倫理的配慮

本研究は、平成国際大学倫理審査委員会（承認通知番号230001号）の承認を得て実施した。

３．結果

各大学生のアンケート集計を表２-１・表２-２（2023H１）、表３-１・表３-２（2023T１）に示す。また、表４に各項目間の平均値の差の検定（ｔ検定）結果を示す。

４．考察

両大学の入学間もない学生を対象にしたアンケート結果から、両者の多くの項目において、回答結果に有意差を見いだすことができなかった。このことから、ほぼ高校保健で学習してきたことの把握状況に対象２大学１年生において「保健」内容の認知度に差はないことが示唆された。

高等学校で学んだ保健の内容のうち、中項目のⅠ「現代社会と健康」のア「健康の考え方」、ウ「精神の健康」、Ⅲ「社会生活と健康」のイ「環境と食品の健康」については、他の項目よりも認知度が低い傾向が見られた。一方、Ⅰ「現代社会と健康」のエ「交通安全」、オ「応急手当」、Ⅱ「生涯を通じる健康」のア「生涯の各段階における健康」は、認知度が高く、高校生活と密接に関係がある内容であり、身近な話題として感心が高いものと思われる。

多くの生徒が、健康や疾病に対して感心の低い日常生活を送っていることを考えると、認知度１ポイント台の小項目、「受療率」、「ヘルスプロモーション」、「虚血性心疾患」等の疾患、「心身の相関」の項目、いわゆる健康の維持増進に関する項目については、学習の認知度が低かったことが推察される。

そうした傾向の中で、本研究で、把握すべき項目である大項目Ⅱ「生涯を通じる健康」の中項目イ「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」内「医薬品」についての認知度は、両大学の調査結果でも、2.4と中程度であった。大項目Ⅰの内「薬物乱用」の調査結果2.8ほどではないが、OD問題が話題となっている事等から、市販薬の使用法等についての高い意識がうかがえた。

5．今後の課題

本研究では、最終的に中学校での医薬品に対する授業構成を目指しているが、今回、2012年度以降に中学校で医薬品に関する内容が取り入れられ、その授業を経験してきた高校生がその内容についてどの程度把握しているかの参考資料とした。他の保健の内容に比べて、様々な社会情勢を受けて、まずまずの学習内容の認知度であった。その把握内容について、より詳細に調査していく必要があろう。

さらに、ODの問題等、市販薬の扱いについて、より正確に中学・高校生の認知度を高めていく必要を感じる。中学校を中心に現状の把握、早期の段階での授業内容を再構成行く必要があろう。

引用文献等

1）「中学校学習指導要領解説保健体育編」、文部科学省、2017年７月、pp206-246
2）「中学校学習指導要領解説保健体育編」、文部科学省、2008年９月、pp148-172
3）https://www.sankei.com/article/20210911-PCXV3HUDHUDTNLZXN2I6DQXOTZVDU/ 2021月９月11日　産経新聞、2022年８月８日参照
4）「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」、令和２年度厚生労働行政推進調査事業費補助金分担研究報告書、松本俊彦他、2021年１月
5）「医薬品・医療機器等安全性情報 No.365」、厚生労働省、2019年８月、pp16-21
6）「高等学校学習指導要領解説保健体育編」、文部科学省、2009年12月、pp111-125
7）https : //www.pref.mie.lg.jp/HOTAI/HP/anzen/000211845.htm　三重県教育委員会 HP、2022年８月８日参照
8）「保健学習推進委員会報告書」、公益財団法人　日本学校保健会2017年２月、pp140～
9）「新学習指導要領『健康と医薬品』に関する授業構成の実証研究」、研究紀要第63号、筑波大学附属中学校、2011年３月、pp69-81

参考文献等

・「若者襲う市販薬依存　せき止め100錠乱用も」、産経新聞電子版 https://www.sankei.com/article/20210911-PCXV3HUDTNLZXN2I6DQXOTZVDU/、2022年８月６日参照
・「子どものこころのセーフティネット」、近藤 卓著、少年写真新聞社2016年７月
・「くすり教育のヒント」、くすりの適正使用協議会編著、（有）レーダー出版センター、2012年３月

※本研究は、2023年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究（C）課題番号23K10792の助成を受けて実施した。

表2-1　2023H1 アンケート調査項目別結果

2023.5.22実施

○：簡単に説明できる（3）　△：言葉は聞いたことがある（2）　×：記憶にない（1）

	ア 健康の考え方				イ 健康の保持増進と疾病の予防									ウ 精神の健康				エ 交通安全		オ 応急手当		
	死亡率	平均寿命	受療率	ヘルスプロモーション	生活習慣病	運動・食事・体重及び睡眠	悪性新生物	虚血性心疾患	脂質異常症	歯周病	喫煙と飲酒	薬物乱用	感染症	欲求と適応機制	心身の相関	欲求やストレス対処	自己実現	交通事故	自然災害による傷害防止	RICE処置	心肺蘇生	AED
最大値	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
平均	**2.4**	**2.7**	**1.5**	**1.6**	**2.7**	**2.6**	**1.5**	**1.5**	**1.7**	**2.4**	**2.8**	**2.8**	**2.7**	**2.1**	**1.9**	**2.3**	**2.1**	**2.8**	**2.4**	**2.1**	**2.7**	**2.8**
SD	0.62	0.52	0.61	0.52	0.50	0.54	0.65	0.59	0.63	0.62	0.45	0.46	0.51	0.65	0.64	0.63	0.69	0.46	0.66	0.75	0.54	0.47
n	105	104	104	104	104	105	104	103	104	104	104	104	105	104	104	105	104	105	104	104	104	104
1	7	2	56	41	2	3	58	57	44	7	2	2	2	16	24	10	20	3	10	26	4	2
2	45	32	42	61	28	33	37	41	51	47	17	18	29	59	62	54	54	14	40	46	25	20
3	53	70	6	2	74	69	9	5	9	50	85	84	74	29	18	41	30	88	54	32	75	82
平均	**2.1**				**2.3**									**2.1**				**2.6**		**2.5**		
SD	0.75				0.77									0.66				0.60		0.68		
n	417				937									417				209		312		
平均	**2.3**																					
SD	0.74																					
n	2,292																					

表 2-2　2023H1 アンケート調査項目別結果

2023.7.26実施

○：簡単に説明できる（3）　△：言葉は聞いたことがある（2）　×：記憶にない（1）

	II 生涯を通じる健康									III 社会生活と健康							合計
	ア 生涯の各段階における健康				イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関				ウ 様々な保健活動や対策	ア 環境と健康		イ 環境と食品の保健			ウ 労働と健康		
	思春期	受精・妊娠・出産	家族計画	人工妊娠中絶	介護保険	臓器移植	献血	医薬品	WHO	環境の汚染［大気汚濁，水質汚濁，土壌汚染等］	廃棄物の処理	上下水道の整備	ごみやし尿などの廃棄物の処理	食品の安全性の確保と食品衛生法	労働災害	労働による傷害や職業病	
最大値	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	114
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	41
平均	**2.8**	**2.7**	**2.4**	**2.4**	**2.2**	**2.6**	**2.6**	**2.4**	**2.4**	**2.3**	**2.3**	**2.1**	**2.1**	**2.1**	**2.2**	**2.1**	**87.4**
SD	0.43	0.48	0.61	0.62	0.64	0.60	0.57	0.60	0.62	0.66	0.66	0.62	0.66	0.65	0.71	0.69	13.92
n	105	104	104	104	103	103	103	105	103	103	103	104	103	100	104	104	94
1	1	2	7	7	14	6	4	6	7	11	12	14	16	16	18	18	
2	19	23	50	45	59	32	36	47	48	49	50	63	57	57	49	53	
3	85	79	47	52	30	65	63	52	48	43	41	27	30	27	37	33	
平均	**2.6**				**2.4**				**2.4**	**2.3**		**2.1**			**2.2**		
SD	0.57				0.63				0.62	0.66		0.64			0.70		
n	417				414				103	206		307			208		
平均	**2.5**									**2.2**							
SD	0.60									0.67							
n	934									721							

表3-1 2023T1 アンケート調査項目別結果

2023.7.26実施

○：簡単に説明できる（3） △：言葉は聞いたことがある（2） ×：記憶にない（1）

	Ⅰ現代社会と健康																						
	ア 健康の考え方				イ 健康の保持増進と疾病の予防									ウ 精神の健康				エ 交通安全		オ 応急手当		
	死亡率	平均寿命	受療率	ヘルスプロモーション	生活習慣病	運動・食事・休養及び睡眠	悪性新生物	虚血性心疾患	脂質異常症	歯周病	喫煙と飲酒	薬物乱用	感染症	欲求と適応機制	心身の相関	欲求やストレス対処	自己実現	交通事故	自然災害による傷害防止	RICE処置	心肺蘇生	AED
最大値	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
平均	**2.5**	**2.8**	**1.5**	**1.7**	**2.8**	**2.8**	**1.5**	**1.6**	**2.0**	**2.3**	**2.9**	**2.9**	**2.6**	**2.0**	**1.9**	**2.4**	**2.2**	**2.8**	**2.4**	**2.5**	**2.8**	**2.8**
SD	0.56	0.50	0.60	0.61	0.41	0.46	0.69	0.56	0.74	0.62	0.37	0.34	0.57	0.63	0.64	0.58	0.62	0.42	0.65	0.73	0.43	0.42
n	93	94	93	93	93	94	93	92	93	92	93	93	93	93	93	93	93	94	93	94	93	93
1	3	3	53	33	1	2	56	40	27	8	1	0	4	20	25	4	9	2	9	13	1	1
2	45	16	35	52	14	16	27	49	42	48	10	12	26	56	54	47	52	11	42	24	17	16
3	45	75	5	8	78	76	10	3	24	36	82	81	63	17	14	42	32	81	42	57	75	76
平均	**2.1**				**2.4**									**2.1**				**2.6**		**2.7**		
SD	0.77				0.75									0.65				0.60		0.57		
n	373				836									372				187		280		
平均	**2.3**																					
SD	0.73																					
n	2,048																					

表3-2　2023T1 アンケート調査項目別結果

2023.7.26実施

○：簡単に説明できる（3）　△：言葉は聞いたことがある（2）　×：記憶にない（1）

	II 生涯を通じる健康									III 社会生活と健康							合計
	ア 生涯の各段階における健康				イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関				ウ 様々な保健活動や対策	ア 環境と健康		イ 環境と食品の保健			ウ 労働と健康		
	思春期	受精・妊娠・出産	家族計画	人工妊娠中絶	介護保険	臓器移植	献血	医薬品	WHO	環境の汚染[大気汚染,水質汚濁,土壌汚染等]	廃棄物の処理	上下水道の整備	ごみやし尿などの廃棄物の処理	食品の安全性の確保と食品衛生法	労働災害	労働による傷害や職業病	
最大値	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	112
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	46
平均	**2.8**	**2.8**	**2.4**	**2.5**	**2.2**	**2.5**	**2.6**	**2.4**	**2.5**	**2.4**	**2.2**	**2.1**	**2.1**	**2.2**	**2.3**	**2.2**	**88.9**
SD	0.46	0.44	0.64	0.60	0.64	0.62	0.63	0.66	0.54	0.59	0.64	0.60	0.55	0.58	0.62	0.58	12.01
n	93	93	94	92	93	93	93	94	94	93	93	93	93	89	93	93	85
1	1	1	8	5	11	6	7	9	2	5	11	11	10	9	8	9	
2	21	18	44	35	50	36	26	39	42	48	51	58	64	57	49	59	
3	71	74	42	52	32	51	60	46	50	40	31	24	19	23	36	25	
平均	**2.6**				**2.4**				**2.5**	**2.3**		**2.1**			**2.2**		
SD	0.57				0.65				0.54	0.62		0.58			0.60		
n	372				373				94	186		275			186		
平均	**2.5**									**2.2**							
SD	0.61									0.60							
n	839									647							

表4 H1(2023年度入学1年生) とT1(2023年度入学1年生)の比較

各項目別

＊ p<0.05

Ⅰ現代社会と健康																				
ア 健康の考え方				イ 健康の保持増進と疾病の予防									ウ 精神の健康				エ 交通安全		オ 応急手当		
死亡率	平均寿命	受療率	ヘルスプロモーション	生活習慣病	運動・食事・休養及び睡眠	悪性新生物	虚血性心疾患	脂質異常症	歯周病	喫煙と飲酒	薬物乱用	感染症	欲求と適応機制	心身の相関	欲求やストレス対処	自己実現	交通事故	自然災害による傷害防止	RICE処置	心肺蘇生	AED
0.872	0.121	0.682	0.195	0.038	0.027	0.806	0.213	0.002	0.221	0.212	0.147	0.505	0.087	0.507	0.189	0.107	0.623	0.469	0.000	0.106	0.558
				＊	＊			＊											＊		

＊ p<0.05

Ⅱ 生涯を通じる健康									Ⅲ 社会生活と健康						
ア 生涯の各段階における健康				イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関				ウ 様々な保健活動や対策	ア 環境と健康		イ 環境と食品の保健			ウ 労働と健康	
思春期	受精・妊娠・出産	家族計画	人工妊娠中絶	介護保険	臓器移植	献血	医薬品	WHO	環境の汚染[大気汚染,水質汚濁,土壌汚染等]	廃棄物の処理	上下水道の整備	ごみやし尿などの廃棄物の処理	食品の安全性の確保と食品衛生法	労働災害	労働による傷害や職業病
0.454	0.498	0.797	0.372	0.444	0.311	0.973	0.622	0.175	0.461	0.476	0.865	0.651	0.598	0.213	0.759